2019 年 12 月
1160 号

万葉
Manyoh

一冊の会 編集部
〒160-0015 東京都新宿区大京町５
（一冊の会研究室）

過去を知り未来へ向かう

～年末に故人を偲び、学び、進む。12 月櫻華塾～

国会議事堂周辺の木々が綺麗な黄色に色づく 12 月 15 日、尾崎行雄記念財団応接室で 12 月度櫻華塾を行いました。鳥飼さんの「青い山脈体操」で身体を温め、佐藤一冊の会広報親善大使の指揮でベートベンの「喜びの歌」を歌いスタートしました。年末といえばベートベンの第九が定番ですが、来年 2020 年はベートベンの生誕 250 年です。毎月のレッスンできっともっと上手に歌える事を楽しみにしています。

飛騨高山国際平和の日の集いに参加して(鈴木さん)

9 月に岐阜県高山市で開催された「飛騨高山国際平和の日の集い」で大槻会長が講演したことは、同行した米山さんから 10 月の櫻華塾で報告がありましたが(万葉 1158 号参照)、今月、報告書が高山市から届きました。なんと、同じく同行した鈴木まり子さんの感想文が掲載されている事がご本人から報告がありました。

私(鈴木)は、飛騨高山にはご縁があり、会長にお願いして随行させて頂きました。平和ボケと表現するのは失礼ですが、高山の会場内に蔓延した空気の中で、魔を切るような大槻会長の気迫に満ちた講演は、列席者すべての聴衆の心に響き、誰もが命の奥底から奮い立つ！会場中、総立ちになる。そのような素晴らしい光景が展開されました。その時の写真や会長の素晴らしさがアンケートにも掲載されておりました。私のその時の感想は、帰りのバスの中で急いで書いたものが直筆のままに全文掲載されておりました。世界銀行の大森功一上級広報官が国連の立場で話す講演に感動していた大槻会長の姿に、私も感動致しました。私たちもこの心を受け継いで行きたいと決意致しました。是非、皆様、この陣列につらなろうではありませんか。幸せに驕らず謙虚に私たち一冊の会会員一同、心を一つにして今後も再度このようなチャンスを頂けるよう皆で努力しましょう。私は、10 月の櫻華塾は休みましたが、改めて会長が常に、交代で発表する機会を与えて下さいますが、それが当たり前と考えず、心から感謝したいと強く、強く、決意しました。

FAWA(アジア太平洋女性連盟)の進捗(三坂 FAWA 事務局長)

東京で開催予定の第 24 回 FAWA 総会に向け 11 月に行った実行委員会の様子や、日程(2021 年 3 月 26 日～29 日)については、11 月の櫻華塾で小山副会長から報告がありました。本日は三坂 FAWA 事務局長から、国際交流基金への助成申請を済ませた報告がありました。この基金の助成を受けると審査を通ったということで外部への信頼も得られますが、それだけに狭き門。多くの書類を作成する必要がありましたが、大槻会長・小山副会長と共にギリギリまで詰めて何とか申請期限に間に合わせたとのこと。発表は来年 4 月 1 日。申請が通るように皆で心を合わせ団結しましょう。と訴えられました。

SDGs 推薦本『なかよしの水』について（新井事務局次長・谷川さん）

SDGs について子どもにも分かるように易しく書かれているタンザニアの絵本『なかよしの水』の輪読活動について、新井事務局次長から改めての周知がありました。新井さんが周囲に絵本を紹介したところ、反響があり孫に送りたいという声もいただいたとのこと。本日は箱根さんのご友人の谷川さんも櫻華塾に参加。輪読活動を大事に捉えて活動してくださっており、「すごい本ですね」と反響をいただいているとのことでした。

国連では「誰一人取り残さない—No one will be left be hind」を理念に 17 項目（169 ターゲット）のゴールが持続可能な開発目標として設定されました。この本の主旨は、それに添うものです。まず私たち１人ひとりが読み理解し、啓発する事が大事です。国際社会が 2030 年までに貧困を撲滅し、気候変動・格差の課題の解決を目指し、持続可能な社会の実現のために努力しております。

一冊の会では 2015 年 9 月より SDGs の研鑽を重ねております。平和も人間の心の中にあります。この輪読本は、心の底から相手を思う心の中に平和が訪れる事が優しく描かれており、誰でも心に響いてきます。輪読を通して SDGs 運動を更に進めて参りましょう。

大槻会長のお話

10 月 22 日には緒方貞子元国連難民高等弁務官が逝去されました。92 歳でした。11 月 29 日には長年お付き合いのあった尊敬する中曽根元総理が亡くなられ、ガクッときた直後、長年アフガニスタンで人道支援と復興に力を尽くした医師の中村哲先生が 12 月 4 日に銃撃されて亡くなりました。大変ショックな出来事です。

2002 年 8 月にアフガニスタン難民部落の視察に、私と小山さんで参加しました。私達はその前からアフガニスタン出身の女性など、三通りの団体を通して識字支援をしておりました。それを知った中村先生と JR 総連の計らいで視察が実現したのです。この年はアフガニスタンの新しい憲法が採択され、女性参政権も発表された年でした。その後情勢を鑑み支援は終了しておりましたが、ご恩ある中村先生の信念「命は奪っても誇りは奪えない」を世界の人々にお伝えしたいと決意しております。アフガニスタン支援については「冊子万葉創刊号」に詳しく掲載しています。

さて、来年は「民権ばあさん」とも呼ばれる楠瀬喜多の没後 100 年を迎えます。一冊の会は、女性の選挙権を訴えた楠瀬喜多に早くから注目し、生涯を紹介する紙芝居を作成。後に DVD に収録しました。先日、高知県の教育委員会の方から、高知県民権記念会館で楠瀬喜多没後 100 年を記念する展示会を開催するので紙芝居の DVD が欲しいと連絡がありました。皆さんが努力して紙芝居を普及したことで、担当者の知るところとなったのでしょう。とくに、一冊の会高知の皆さんが、婦人参政権発祥の地・高知に中村道子先生・赤松良子先生を、楠瀬喜多のお墓にご案内し、紙芝居を披露し、全国へと広がりました。私達が地道に積み重ねている活動は無駄ではありません。皆さんの努力の結晶ですね。素晴らしい一年の締めくくりとなりました。新年 55 周年を清新な気持ちで迎えましょう。

石田理事長から

今年お亡くなりになった、中曽根元総理、緒方貞子さん、中村哲さんは、尾崎記念財団ともつながりがある方々でした。政府、住民、タリバンからも信頼されていた中村先生が、なぜアフガニスタンで亡くならなければならなかったのか。個人的に偲ぶだけでなく、中村先生とのご縁とアフガニスタンの厳しい現状を知って何ができるか考える必要があります。緒方貞子さんは 1998 年に尾崎咢堂賞を受賞されました。訃報を聞いて悲しかったですが、我々が考えなければならないのは難民のことです。ウシオ電機の設立者の牛尾さんが、次の言葉を雑誌に投稿されていました。「難民を支援している国々へのリスペクト、現地の人に対するリスペクト、難民１人１人に対する尊厳・尊重を忘れてはならない」そう緒方さんが言っていたと。難民は可哀想だから手を差し伸べるべきなのではない、同じ人間として立場は一緒でたまたま困った立場にいるだけにすぎない。相馬雪香の原点が緒方さんの中にも刻まれていると感じます。1950 年スイスのコーで開催された相馬雪香が出席した国際会議には、中曽根元総理も出席していました。フィリピンの国会議員であったペクソン女史は、相馬雪香の言動を間近に見て日本の女性は変わってくれるかもしれないと思い対話を重ねました。それがきっかけで 1959 年に FAWA が設立されたのです。相馬雪香は第１回目に参加していないので創立者になっていませんが、その利他の心を一冊の会は引き継いでいます。

継続は力ですが、ダラダラとやるのではなく、１人１人が主役になって自分のこととして活動をすることが大切です。活動の原点を振り返り、これからも力強いものにしていきましょう。

文責：平間理事・研究員、赤田万葉編集担当・研究員

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2019 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.